

富士ダイス株式会社

2019年3月期 第2四半期 決算説明資料



匠の技と信頼の輪

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

目次

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	7
III : 2019年3月期第2四半期 業績概要	15
IV : 2019年3月期 業績見通し	23
V : 成長戦略	27
VI : 参考資料	39

I :	会社概要	2
II :	当社の特長	7
III :	2019年3月期第2四半期 業績概要	15
IV :	2019年3月期 業績見通し	23
V :	成長戦略	27
VI :	参考資料	39

会社概要

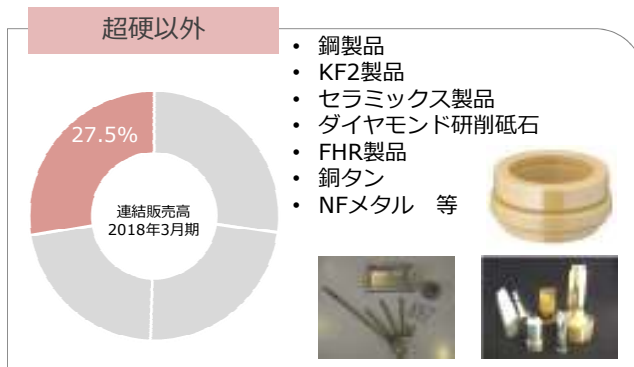
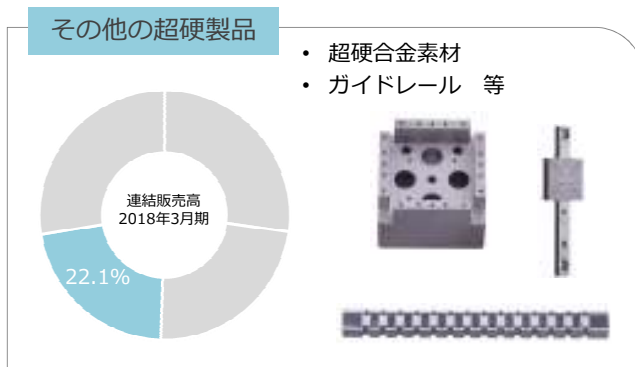
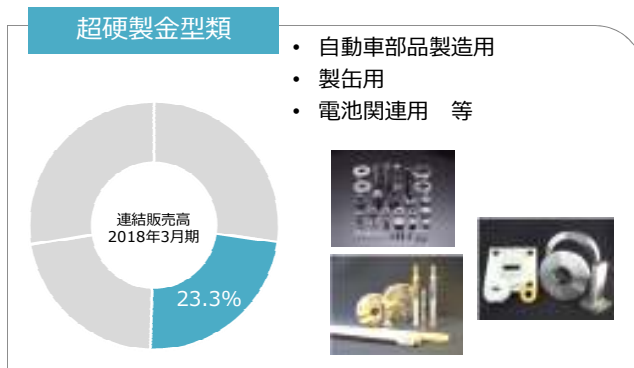
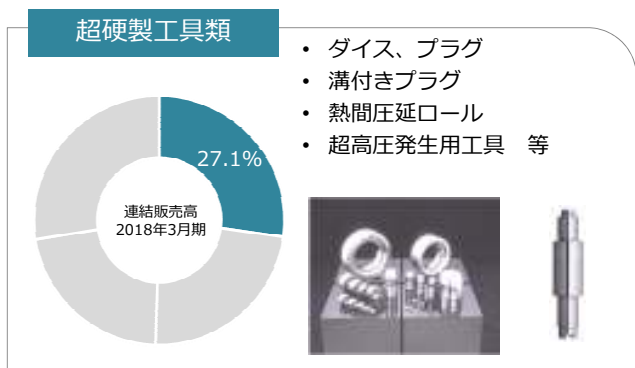
会社概要

商号	: 富士ダイス株式会社	創業	: 1949年6月
所在地	: 東京都大田区下丸子2-17-10	設立	: 1956年4月
資本金	: 164百万円	事業目的	: 超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造・販売
代表者	: 代表取締役社長 西嶋 守男	従業員数	: 1,116名 (2018年3月期末、連結)

拠点 (2018年9月30日現在)



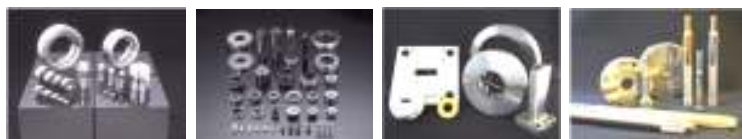
■ 超硬合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造に特化



様々な製品の製造工程に用いられる

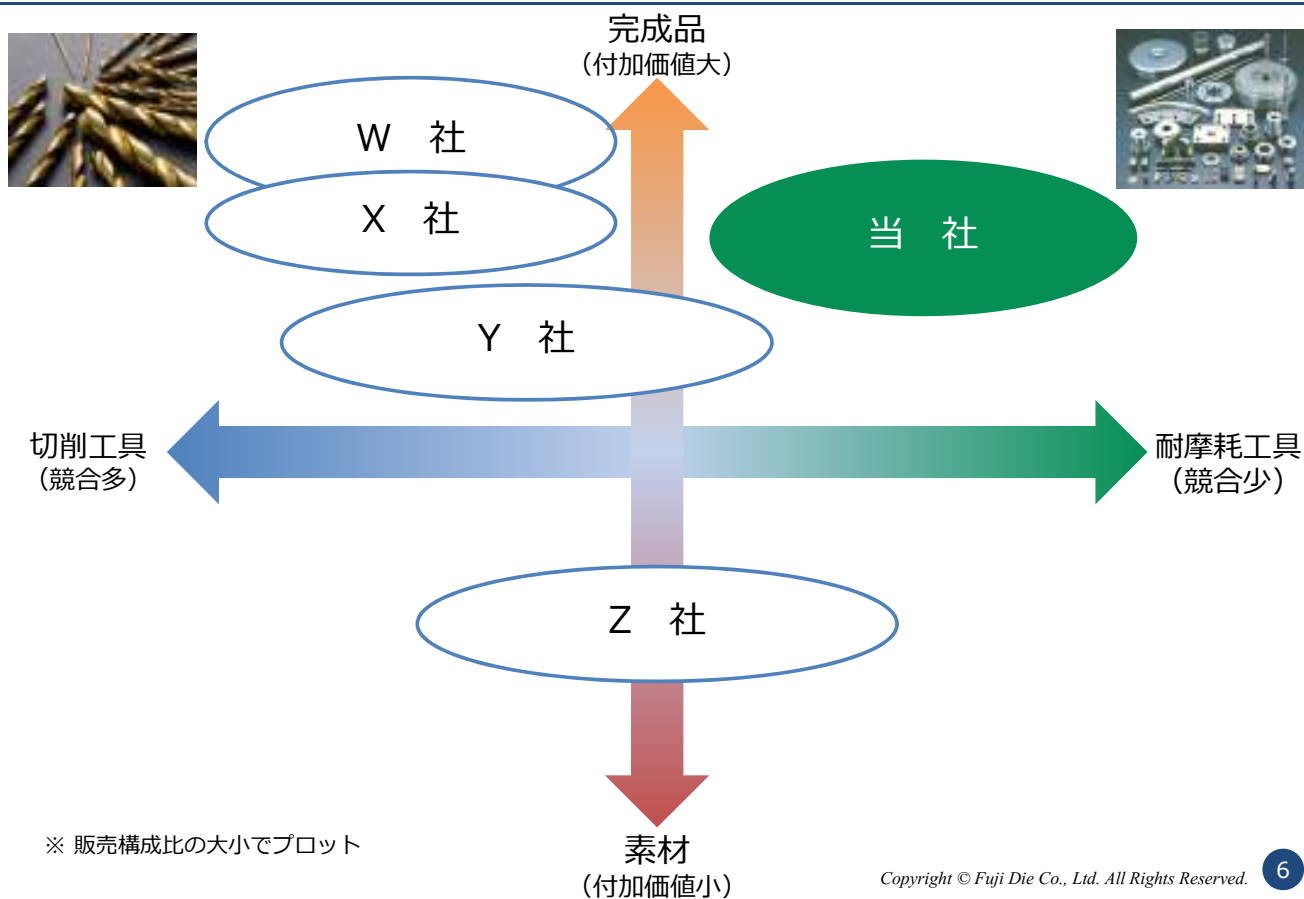
■ お客様の製造工程における生産性（加工速度や精度）向上に直結する超高精度の工具・金型を提供

当社工具・金型



お客様の最終製品例





	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	7
III : 2019年3月期第2四半期 業績概要	15
IV : 2019年3月期 業績見通し	23
V : 成長戦略	27
VI : 参考資料	39

POINT1

超硬耐摩耗工具業界で長期に亘り**国内トップ**

POINT2

受注生産・直販体制、**全国をカバー**するネットワーク
取引先は**約3千社**、**業種も多岐**に亘る

POINT3

一貫生産体制により様々なオーダーに柔軟に対応

POINT4

開発力-生産技術力-営業力が競争力の源泉

POINT5

堅固な財務基盤

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

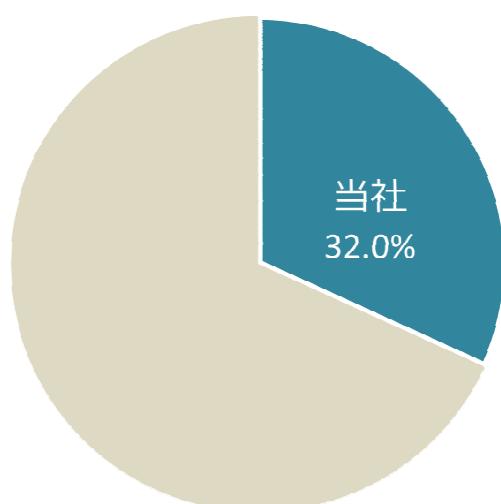
8

POINT1

耐摩耗工具専門国内トップメーカー

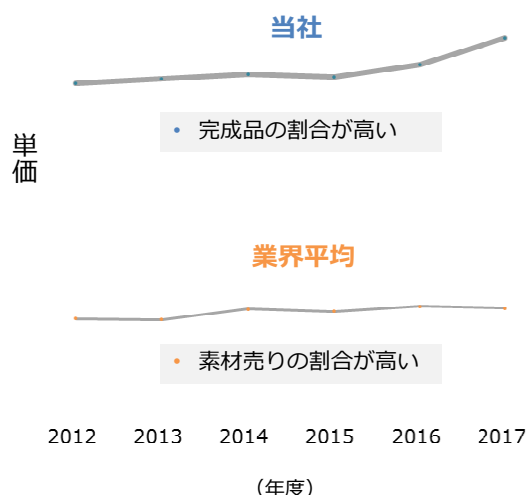
- 国内超硬耐摩耗工具業界で当社は**長期に亘り**、**トップシェア**を堅持
- 少量多品種の**高付加価値製品**の販売が主で、販売価格は**安定**して推移

耐摩耗工具国内出荷額シェア（2017年度）



出所：日本機械工具工業会

製品の平均単価の推移



(年度)

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

9

- 業界最大の約100名の営業員による**直接販売網**を構築
- メンテナンス（修理・再研磨）により**高いリピート率**を実現

拠点網 （2017年9月30日現在）

主要生産拠点 7ヶ所

郡山、秦野、名古屋、大阪、岡山
熊本、新和ダイス（山梨）

営業拠点 13ヶ所

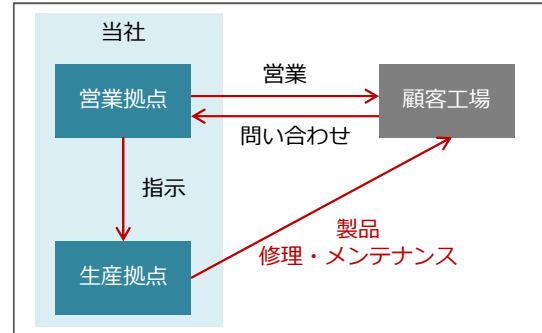
郡山、埼玉、秦野、栃木、東京
岡山、大阪、名古屋、北陸
熊本、門司、本社（輸出部）
富士シャフト（福島）



※2017年5月に門司工場を閉鎖し、生産設備を熊本製造所に移管

顧客との強固なネットワーク

- リレーションを強化することにより、顧客の要望に対しタイムリーに対応
- 顧客の生産効率アップに繋がる提案が可能



顧客ニーズ

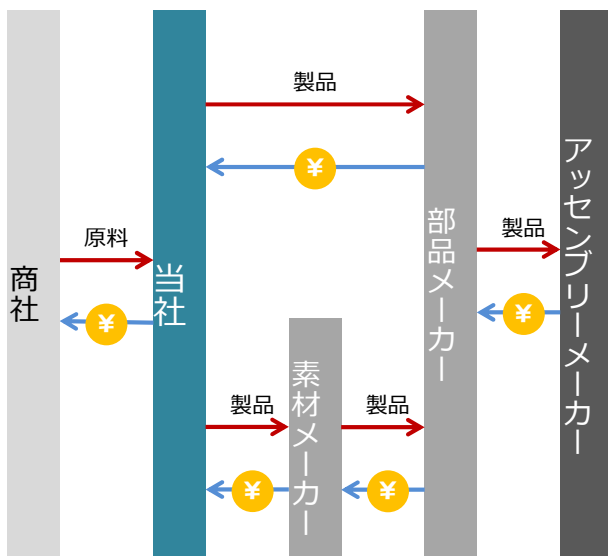
- 製品自体の耐摩耗性や精度の高さ
- 設計思想や生産体制に合った製品

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

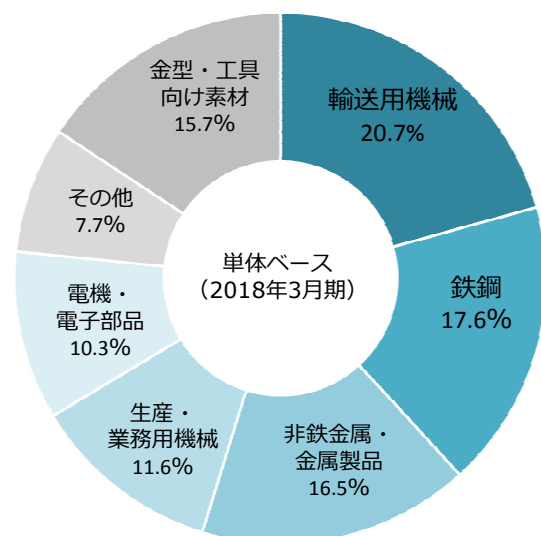
10

- 少量多品種の顧客毎の**カスタムメイドの受注生産・直接販売**を行う
- 取引社数は**約3千社**、業種も幅広い
- 特定の系列に属さない**独立系**のため様々な業界、企業と取引が可能

事業フロー



顧客産業分類別売上構成比率



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

11

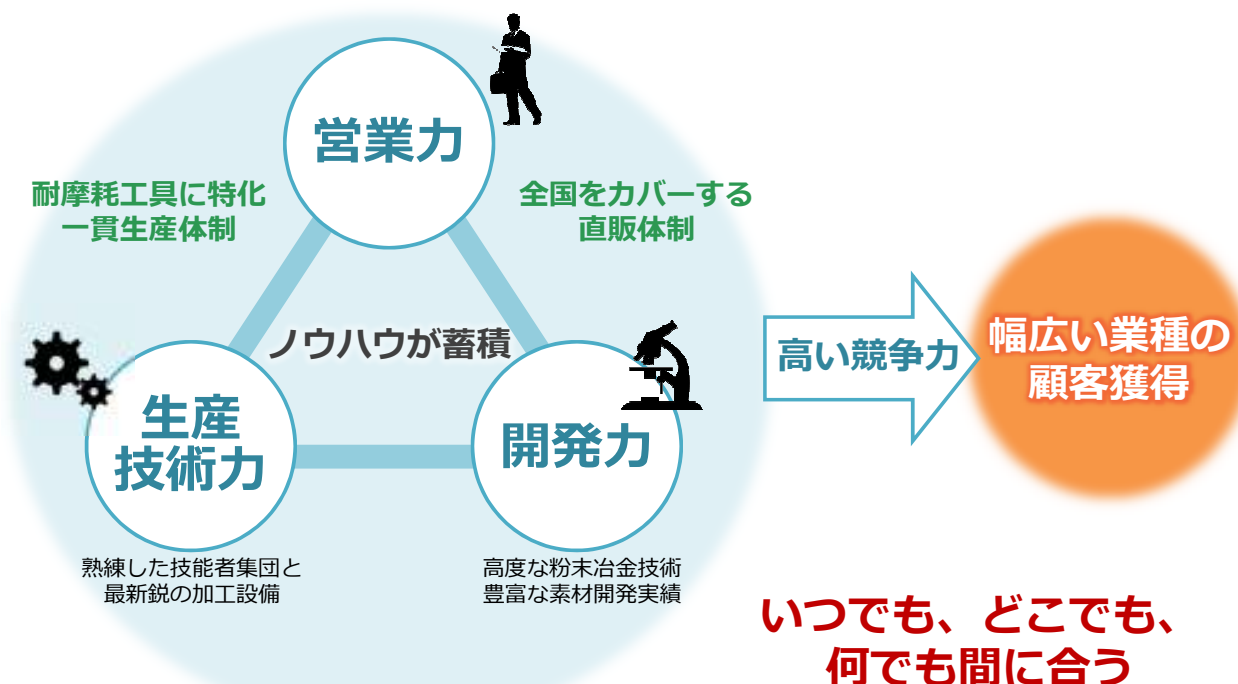
- 設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査まで一貫した受注生産体制
- 高度な粉末冶金技術と加工技術
- 様々なオーダーに対し柔軟に対応が可能（多品種・少量生産）



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

12

- 開発力、生産技術力、営業力が相まって、高い競争力を創出

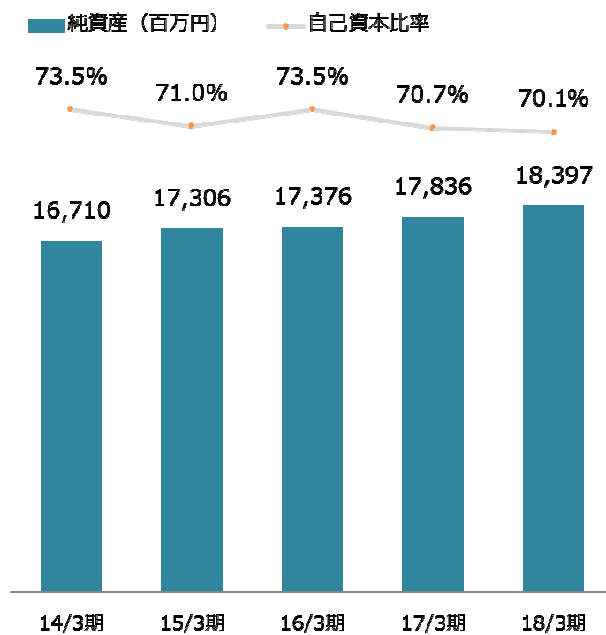


Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

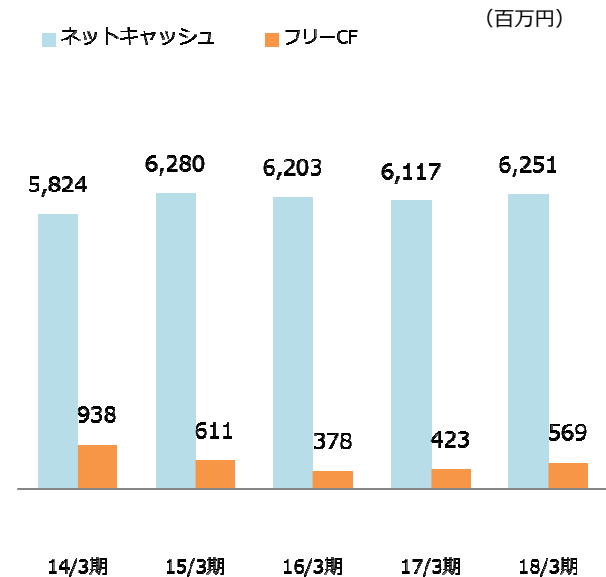
13

- 創業以来現在に至るまで**黒字経営**を継続し、高い自己資本比率を維持
- 手元資金も潤沢

純資産・自己資本比率推移



ネットキャッシュ残高・フリーCF推移



※ネットキャッシュ = (現預金 + 有価証券) - (短期借入金 + 1年内返済予定の長期借入金 + 長期借入金)

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

14

page

I	会社概要	2
II	当社の特長	7
III	2019年3月期第2四半期 業績概要	15
IV	2019年3月期 業績見通し	23
V	成長戦略	27
VI	参考資料	39

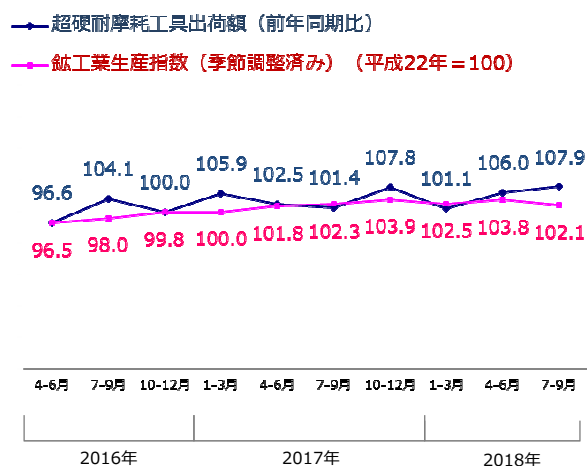
連結売上高	9,122 百万円	(前年同期比 103.6%) (計画比 100.2%)
連結営業利益	705 百万円	(前年同期比 89.7%) (計画比 110.3%)

- 売上高、営業利益ともに事業計画を上回った
- 需要分野別では“輸送用機械”や“鉄鋼”向け工具、“金型・工具向け素材”が好調に推移した
- 計画比では目標達成も、利益面では前年同期比でコバルトやタングステンなどの原材料価格の高騰に加えて、持続的な成長に向けた人員増による人件費の増加により減益となった

2019年3月期第2四半期の事業環境

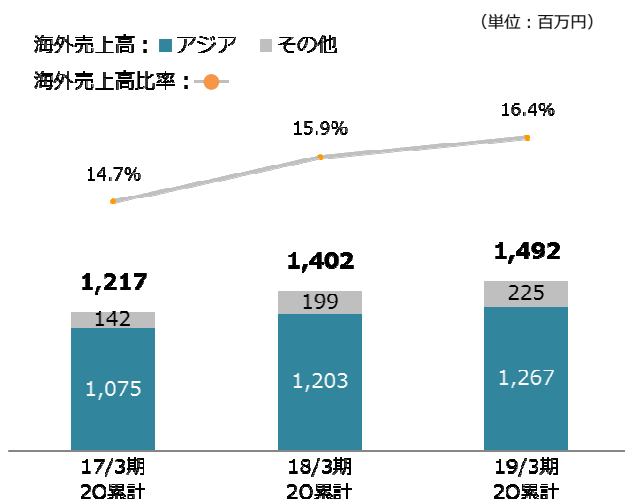
- 鉨工業生産指数は緩やかな上昇傾向が続く。超硬耐摩耗工具出荷額は2016年7-9月期から9四半期連続で前年同期以上の水準で推移
- 海外売上高は前々年、前年と堅調に増加。組織改編により更なる拡販強化を図る

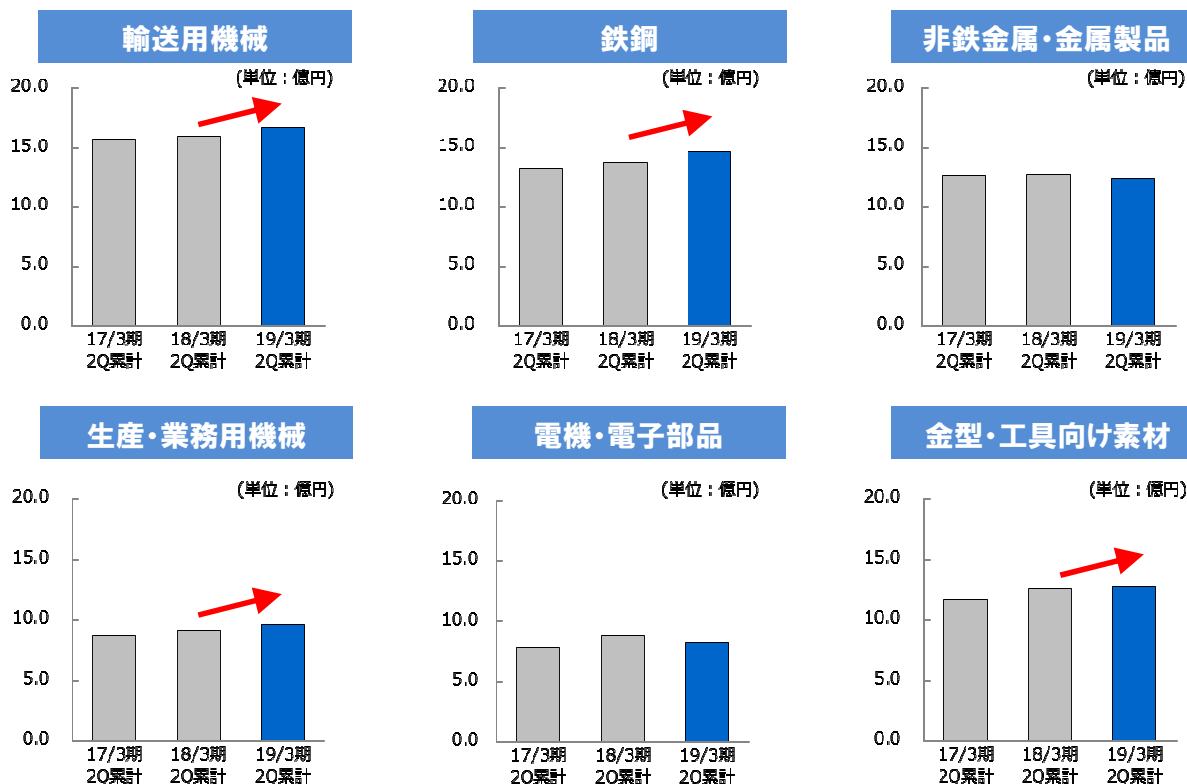
超硬工具出荷額推移



出所：日本機械工具工業会 『超硬工具統計』
経済産業省 『鉨工業指数』

海外売上高・海外売上高比率推移





Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

連結損益計算書 (前年同期比)

(単位: 百万円、下段は構成比)

	2018年3月期 第2四半期累計	2019年3月期第2四半期累計	
			前年同期比
売上高	8,803 (100.0%)	9,122 (100.0%)	103.6%
超硬製工具類	2,345 (26.6%)	2,567 (28.1%)	109.4%
超硬製金型類	2,075 (23.6%)	2,076 (22.8%)	100.1%
その他の超硬製品	1,954 (22.2%)	2,063 (22.6%)	105.6%
超硬以外	2,427 (27.6%)	2,415 (26.5%)	99.5%
売上総利益	2,342 (26.6%)	2,305 (25.3%)	98.5%
販管費	1,554 (17.7%)	1,600 (17.5%)	102.9%
営業利益	787 (8.9%)	705 (7.7%)	89.7%
経常利益	788 (9.0%)	767 (8.4%)	97.4%
親会社株主に 帰属する四半期純利益	577 (6.6%)	555 (6.1%)	96.2%

主な増減要因

▷売上高

・**超硬製工具類**: 混練工具、超高压発生用工具、熱間圧延ロールの好調が継続。粉砕工具や冷間圧延ロールの販売も増加。

・**超硬製金型類**: 粉末成形用金型が苦戦したが、自動車部品生産用金型や半導体用金型の販売が好調に推移し、前年並みの売上を確保。

・**その他の超硬製品**: 半導体生産用の超硬金型素材や半導体製造装置用部品の販売が堅調。加えてスマホ部品生産用の超硬金型素材の販売が伸長。

・**超硬以外**: 子会社が製造販売する引抜鋼管が引き続き堅調。一方、鋼製の電池用金型や製缶金型、KF2製の混練工具の販売が低調で前年比微減。

▷営業利益

主に原材料高騰の影響を大きく受け、前年同期比で減少。

(単位：百万円、下段は構成比)

	2018年3月期末	2019年3月期第2四半期末	
			前期末比増減
流動資産	14,756 (56.2%)	13,971 (55.5%)	▲785
固定資産	11,488 (43.8%)	11,220 (44.5%)	▲268
資産合計	26,245 (100.0%)	25,192 (100.0%)	▲1,053
流動負債	6,047 (23.0%)	4,980 (19.8%)	▲1,067
固定負債	1,800 (6.9%)	1,773 (7.0%)	▲26
負債合計	7,847 (29.9%)	6,753 (26.8%)	▲1,093
純資産合計	18,397 (70.1%)	18,438 (73.2%)	+40
負債・純資産合計	26,245 (100.0%)	25,192 (100.0%)	▲1,053

主な増減要因

▷流動資産

現金及び預金 ▲1,105
受取手形及び売掛金 ▲187
仕掛品 +182
原材料及び貯蔵品 +173

▷固定資産

建物及び構築物 ▲126
機械装置及び運搬具 ▲103

▷流動負債

未払金 ▲570
未払費用 ▲654

▷純資産

利益剰余金 +95
為替換算調整勘定 ▲53

(単位：百万円)

	2019年3月期第2四半期累計
現金及び現金同等物期首残高	6,539
営業キャッシュフロー	326
投資キャッシュフロー	▲847
財務キャッシュフロー	▲489
現金及び現金同等物期末残高	5,509
フリーキャッシュフロー	▲520

主な内容

▷営業キャッシュフロー

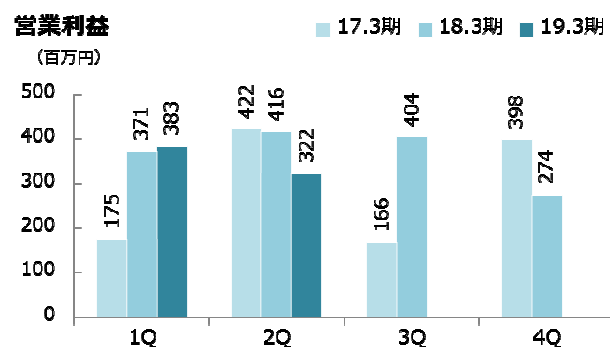
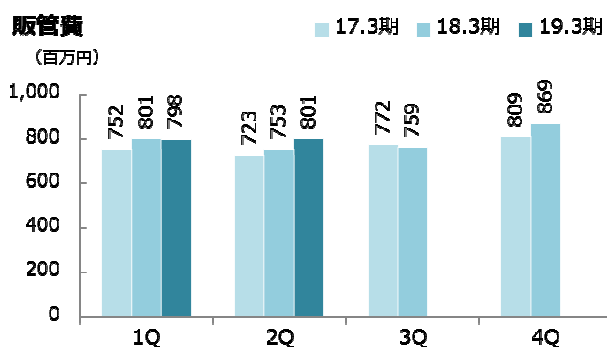
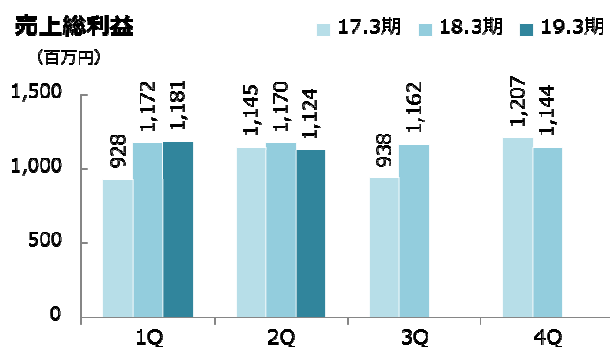
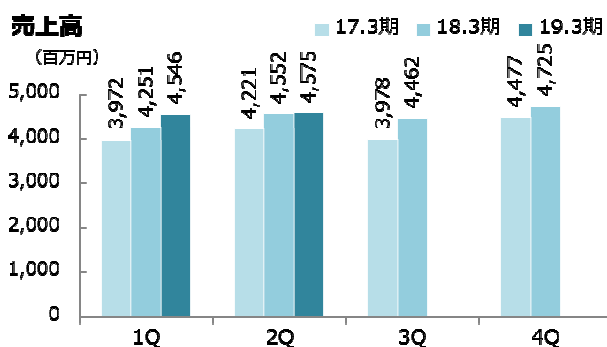
税金等調整前四半期純利益 +760
減価償却費 +527
売上債権の増減額 +177
たな卸資産の増減額 ▲447

▷投資キャッシュフロー

有形固定資産の取得による支出
▲950

▷財務キャッシュフロー

配当金の支払額 ▲459



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

page

I :	会社概要	2
II :	当社の特長	7
III :	2019年3月期第2四半期 業績概要	15
IV :	2019年3月期 業績見通し	23
V :	成長戦略	27
VI :	参考資料	39

- 期初計画からの変更はなし
- 旺盛な需要に対応した要員増に伴う人件費の増加、設備機器の老朽代替費の増加、原材料費の高騰によるコスト増等が重く、増収減益の見通し

(単位：百万円、下段は構成比)

	2018年3月期	2019年3月期	
		計画	前期比
売上高	17,990 (100.0%)	18,300 (100.0%)	101.7%
営業利益	1,465 (8.1%)	1,300 (7.1%)	88.7%
経常利益	1,473 (8.2%)	1,430 (7.8%)	97.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	932 (5.2%)	960 (5.2%)	102.9%
設備投資	1,237	1,690	136.6%
減価償却費	1,069	1,128	105.5%

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

24

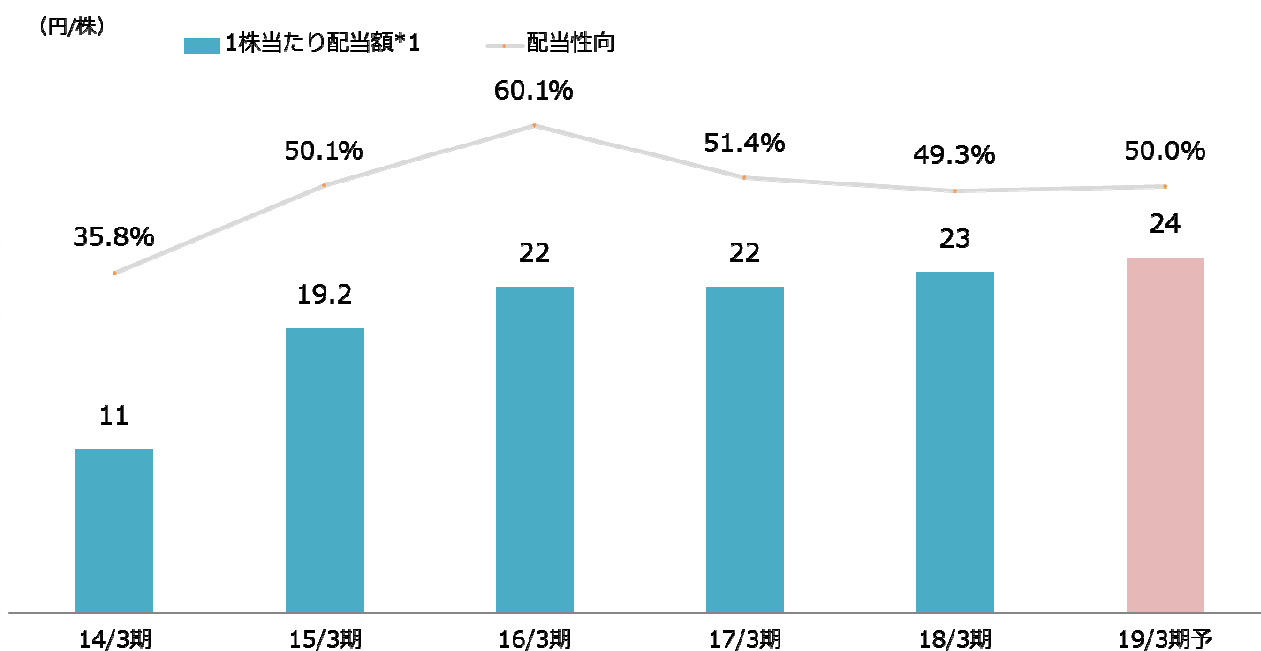
顧客産業分類別 市場動向と当社の取り組み

需要分野	2018年度 市場動向と当社の取り組み	前期動向	今期見込み
輸送用機械	次世代自動車向けの部品成形用金型を積極的に取り込んでおり、前期比増を見込む		
鉄鋼	国内高炉メーカー向け工具の横展開が進展し微増見込み。東南アジア向けの需要増もあり、前期比微増を予測		
非鉄金属・金属製品	当社主力製品のひとつである飲料缶の成形金型は微減だが、家電向け非鉄金属加工用工具の微増を見込み、前期並みを予測		
生産・業務用機械	半導体製造装置向け部品や金属加工用装置向け金型、高圧関連工具が増加、また光学機器用金型は微増、全体では前期比増を予測		
電機・電子部品	磁石、電池向け金型は前期比増だが、半導体素材の成形工具は前期並み。全体では前期比微増を予測		
金型・工具向け素材	超硬素材はアジア半導体向け、および次世代自動車向け工具素材の拡販を進め前期比増を見込む		

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

25

連結配当性向を50%を目処に適切な利益配分を実施



*1: 15/1に1→100の株式分割を実施。遡及値。

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	7
III : 2018年3月期第2四半期 業績概要	15
IV : 2018年3月期 業績見通し	23
V : 成長戦略	27
VI : 参考資料	39

持続的な成長に向けた、当社を取り巻く事業環境見通しと対処すべき課題



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

～基本コンセプト～

受注増への対応と、将来の社会変化への準備

- 1

成長力・収益力の強化

顧客要望に応える為、供給能力の増強に取り組み売上高増加を図る

 - 人員の増強
 - 冶金工場の拡充と生産設備の増設
 - 工場・設備の集約
 - 生産設備の自動化による生産性向上
 - 改善活動、技術開発等による製造原価低減
 - 不採算製品の見直し
 - ITの活用による業務効率向上
- 2

顧客ニーズの変化への柔軟な対応

市場動向に即したソリューション提供による顧客の主要サプライヤーを目指す

 - 自動車産業の転換に対応した組織的な情報収集（ワーキンググループ設置・運用等）
 - 営業部門と生産部門の円滑な情報共有
 - 効果的な設備投資
 - 市場規模に応じた人員配置
 - 開発センターを活用した積極的な試作品投入
- 3

海外展開の加速

海外子会社、輸出の両輪での売上拡大を目指す

 - アジア地域における売上増加（高付加価値製品の拡販、非日系顧客の開拓）
 - ローカル人材の早期戦力化・定着
 - 海外子会社の経営管理の充実
- 4

新製品開発・新技術開発

新製品・新技術の開発をスピードアップ

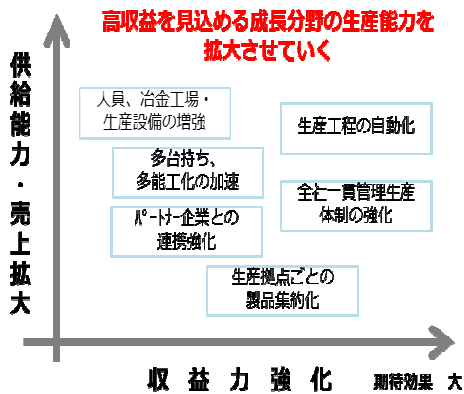
 - 市場調査・分析から開発、製品化、生産移管まで一貫で進める体制構築
 - 生産方式の革新を目指し、製造原価低減、設備ツール選定、加工方式、内製による設備開発の推進体制を整備

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

- 生産体制・生産品種の**最適化**
- IT化による各種**情報の一元化**
- 生産の**自動化**や**省人化**などの生産工程の効率化

《生産部門の施策》

【成長力・収益力強化のための施策と期待効果マップ】



生産効率10%以上の改善施策

▼主な施策 IT（情報技術）と生産体制構築による生産効率向上

	Step 1	Step 2	Step 3
IT関連	・工程管理システムによる生産日程の最適化	・生産情報の一元管理（図面・加工データ）	・IoT技術の導入による生産計画の最適化
生産関連	・生産体制再構築（生産効率化・環境対応）	・自動化、省人化ライン配置 ①：検査自動化ライン ②：MCライン ③：異工程連動 他	・自動化ラインの横展開 ・工場集約 ・子会社対応の拡大

※Step1・Step2並行展開

- 生産体制・生産品種の**最適化**
- IT化による各種**情報の一元化**
- 生産の**自動化**や**省人化**などの生産工程の効率化

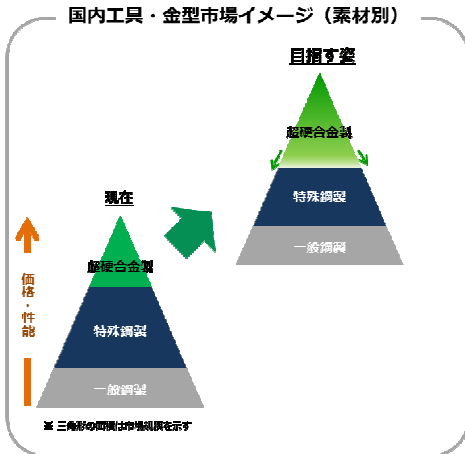
《生産部門の自動化・省人化の取り組み》

自動化・省人化の導入工程	導入時期	内容	効果（作業時間・稼働）	画像
●三次元測定器	2017年 2018年	・アーム付きロボットによる製品自動検査 ・レーザーマーカーによる自動刻印	合計92%時間削減<内訳> ・自動測定：77%減 ・自動刻印：15%減（特定製品での効果）	<p><2017年> <2018年></p>
●MCライン（加工設備）	2018年	・アーム付きロボット導入によるMC機全体の稼働率の向上	効果検証中	
●超精密加工	2018年	・棒状製品の自動研磨（サブミクロンレベルの幾何公差 [円筒度] 実現）	58%時間削減 （特定製品での効果）	<p>（イメージ図）</p>

既存重点市場の維持拡販をいしつつ、成長分野の主要プレイヤーを目指す

既存重点市場の維持拡販

- 半導体関連、缶器、ステアリング工具、レンズ金型などを重点市場と定め、既存顧客の深堀、同業への横展開を含め、維持拡販を図る
- 超硬合金の性能の高さ（硬度、製品寿命、変形しにくさ等）を改めて訴求し、従来特殊鋼が用いられていた工程で超硬合金製の工具・金型への転換を提案し、新規案件を開拓

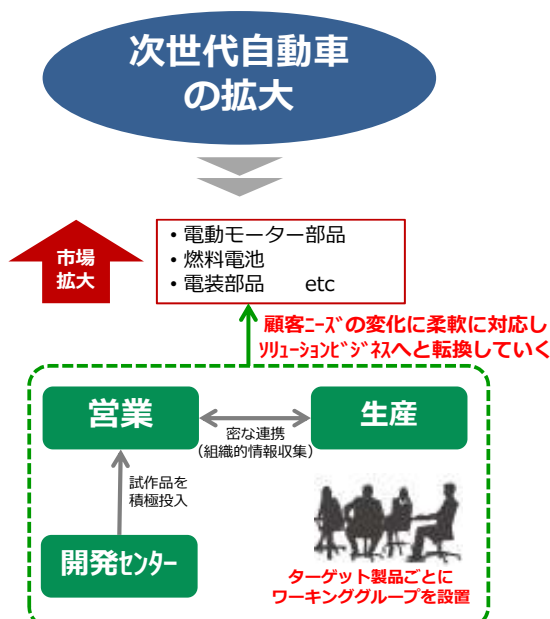


営業力の強化

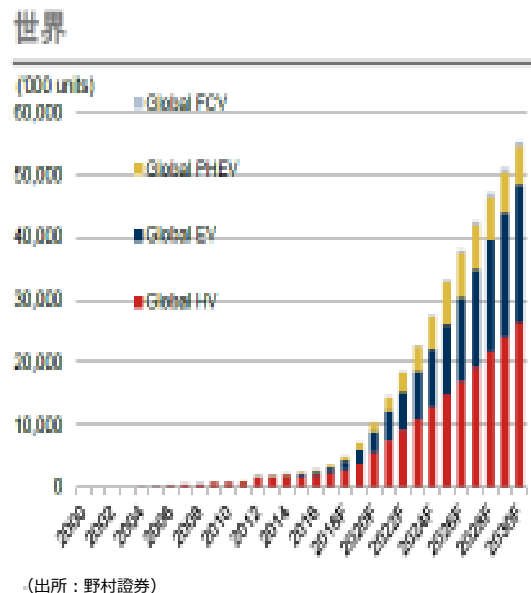
- 営業部門の再編
 - 地域の市場規模に応じた人員配置
(名古屋営業所の移転拡充：2018年6月移転完了)
⇒ 中部地区の輸送用機械分野への販売拡大
 - ソリューション営業の強化
 - 顧客の新製品立上げ支援
(製品開発初期からの協業、積極的な試作品投入)
⇒ 次世代自動車関連の顧客に試作品を提示
 - 営業員の能力開発
 - 階層別教育の拡充（外部講習、e-ラーニング等）
 - 外社マナーシステム導入による個の力量把握と向上支援
 - IT利活用による一層の業務効率改善
 - SFA(*1)やメールの高度利用による緊密なコミュニケーションと顧客/技術レッジの共有化の促進
⇒ 技術サービス部とのSFA活用による情報共有と顧客支援連携
- *1:SFA(Sales Force Automation：営業支援システム)
- 社内の各種文書のデジタル化推進
⇒ 試作申請書類の電子化による業務効率化が進展

既存重点市場の維持拡販をいしつつ、成長分野の主要プレイヤーを目指す






自動車産業の変化が成長機会



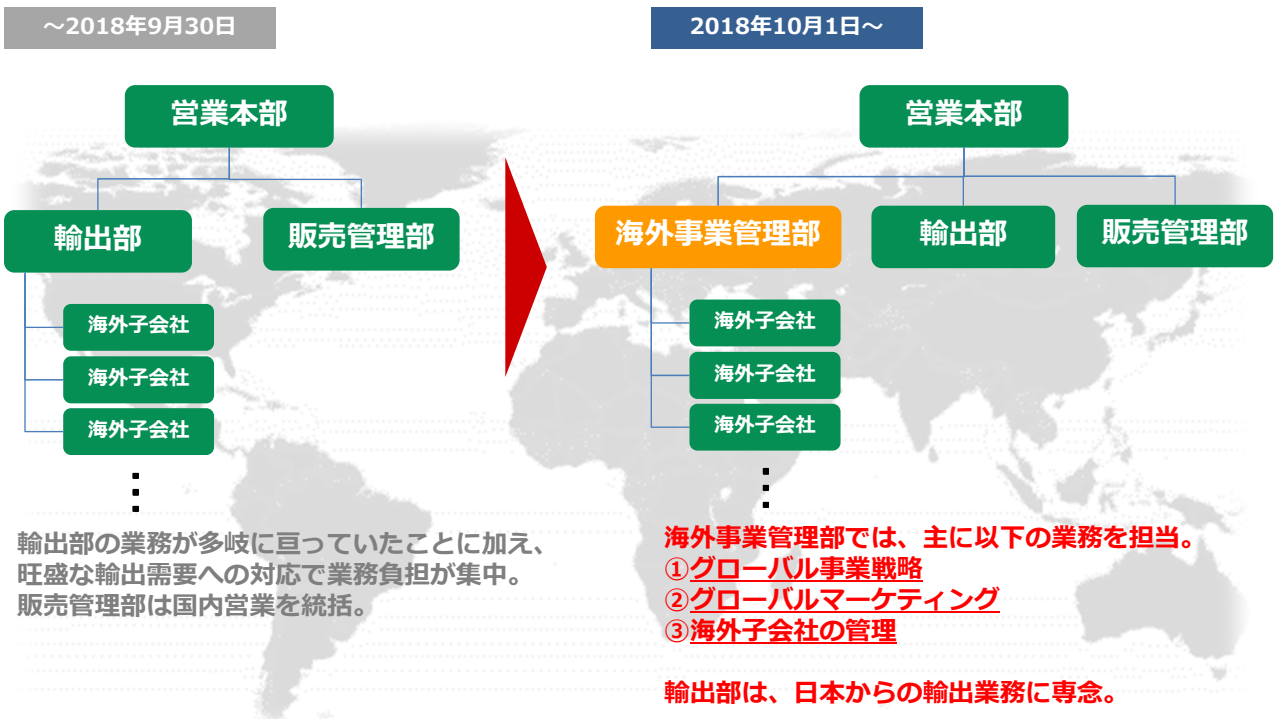
次世代パワートレインの販売台数（予想）



海外子会社、輸出の両輪での売上拡大を目指す

	ビジネスの特徴	今後の見通しと事業戦略
 タイ	<ul style="list-style-type: none"> 2003年がイ・プラー生産拠点として現法設立（2012年に新工場移転） 現在は主に、自動車やITコンの部品メーカー、鉄鋼メーカーへの関連工具を現地生産で供給 インド、マレーシア等への輸出も増加 	<ul style="list-style-type: none"> 堅調な自動車市場と現調化拡大による需要増加を見込む 複雑形状や高精度製品など生産力強化による販売拡大 ASEANを中心とする周辺国への製品供給基地としての生産能力強化
 中国	<ul style="list-style-type: none"> 2004年に営業拠点として上海に現法設立 半導体関連、自動車部品、光学部品、電池メーカーへの販売が主流 	<ul style="list-style-type: none"> 華南、華東地区（上海、蘇州）の顧客開拓強化による拡販 成長を続ける既存市場での販売拡大
 マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> 2012年に営業拠点としてペナンに現法設立 2017年にクアラルンプール支店設立 マレーシア、シンガポール、 베트남の電子半導体関連への販売が主流 ASEAN地区の拡販拠点 	<ul style="list-style-type: none"> IoT化に伴う堅調な半導体市場での販売拡大 グローバル営業員の育成により、ロカ顧客開拓を強化
 インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> 2010年にがイ・プラー生産拠点として現法設立（2014年に新工場移転） 現在は自動車および二輪車の部品メーカーや鉄鋼、電池メーカーの関連工具を現地生産で供給 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車及び二輪車の部品メーカーの現地生産及び現調化拡大に伴う需要増に対応 親会社との連携強化と現地スタッフのスキルアップによる生産能力強化
 アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> 日本からの輸出で対応 銅管メーカーや鉄鋼メーカーへの販売が主流 	<ul style="list-style-type: none"> 子会社との連携による拡販 日系自動車部品メーカーや電池メーカーへの拡販強化

- 10月1日付で海外事業管理部を新設。海外展開の強化、加速を図る。



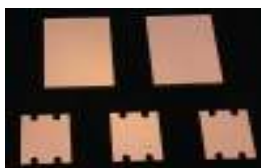
新製品・新技術の開発をスピードアップ

分野	概要	素材	優位性	進捗状況	販売時期(予定)		
					2018年	2019年	2020年
次世代自動車	①モーター用抜き金型	①超硬合金	①材料技術	①ガッフル出荷	→		
	②車載電池用金型	②超硬合金	②加工技術	②販売中	→		
	③過給器用機械部品	③複合材料	③特許出願	③ガッフル出荷	→		
航空・宇宙	①航空機エンジンタービン加工向け工具	①セラミックス	①特許取得	①販売中 (量産体制構築)	→		
	②燃料ポンプ用摺動材	②複合材料	②材料技術	②性能評価中	→		
医療・化粧品	①分析マイクロチップ用金型(μ-流路)	①超硬合金	①加工技術	①ガッフル出荷	→		
	②ドラッグデリバリーシステム用金型	②複合材料	②加工技術	②性能評価中	→		
環境・エネルギー	①半導体向け高熱伝導用素材 (※ p.37参照)	①複合材料	①特許取得	①ガッフル出荷	→		
	②高圧合成法を用いた触媒	②新物質	②特許取得	②ガッフル準備中	→		
その他	①赤外線レンズ用金型	①複合材料	①特許取得	①性能評価中	→		
	②高圧発生装置用素材	②超硬合金	②特許取得	②販売中	→		

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

本年11月1～6日に開催された、JIMTOF 2018（国際工作機械見本市）に出展。
以下の製品・技術が注目を集めた。

●高熱伝導用素材（FHT）の開発



技術・製品の特長

- 業界最高の熱伝導率 550W/m・k
⇒ 熱伝導率が銅タングステン合金の3倍超（当社比）

期待効果・用途例

- 高性能な集積回路向け基板
- LED（発光ダイオード）放熱基板
- レーザー発振器

●3Dプリンターを活用した超硬合金の積層造形技術



ハニカム形状の造形品
(参考出展)

技術・製品の特長

- 長年蓄積した粉末冶金技術の活用
- 超硬合金の造形に適った間接造形法（積層造形）を3Dプリンターに適用

期待効果・用途例

- 複雑な形状の製品加工
- 複数製品の同時造形
⇒ 自動化、省人化の促進
- 粉末歩留り100%
⇒ 省資源、省工ネの促進

粉末冶金法技術を用いた積層造形法



プレス成形や圧粉体加工の必要がなく、成形体の製作が可能

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

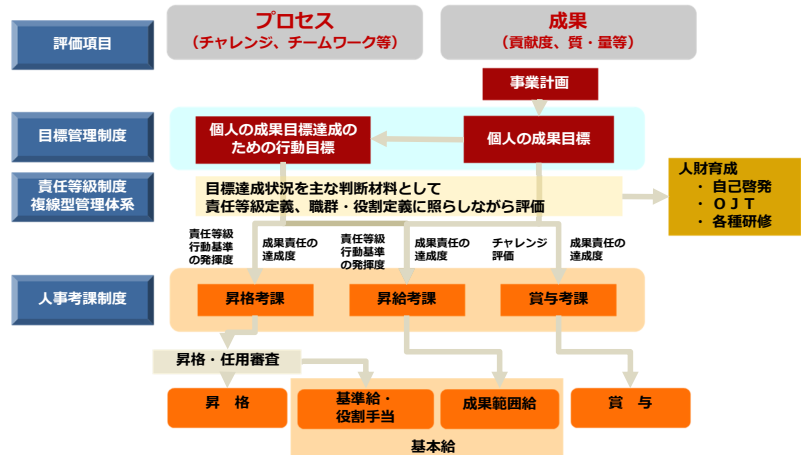
本年4月より新たな人事制度を導入。
 激動の経営環境に対応し、企業としての
 持続的成長を実現していくこと。

更に、従業員一人ひとりの「働き方」を
 見直し「やりがい」や「モチベーション」
 の向上を両立できる仕組みとして設計。



●人事制度改革のポイント

- ・ 目標管理 (MBO) の考え方をベースとした「**透明性**」「**公平性**」「**納得性**」の高い制度を設計。
- ・ 評価基準に「**チャレンジ**」「**改善・革新**」要素を盛り込み、**イノベーションへの取り組みに力点**を置いた。
- ・ 最終評価は「**プロセス**」と「**成果**」両面で査定。
- ・ 「**働き方改革**」にも寄与する仕組みとして導入。

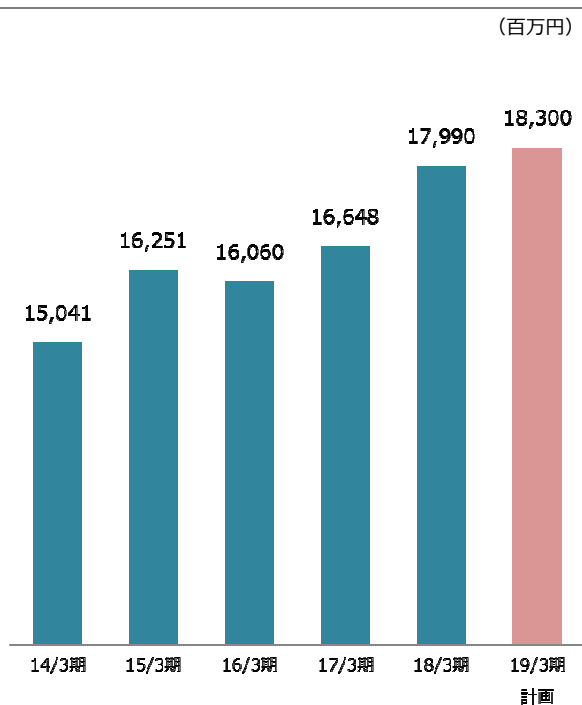


Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

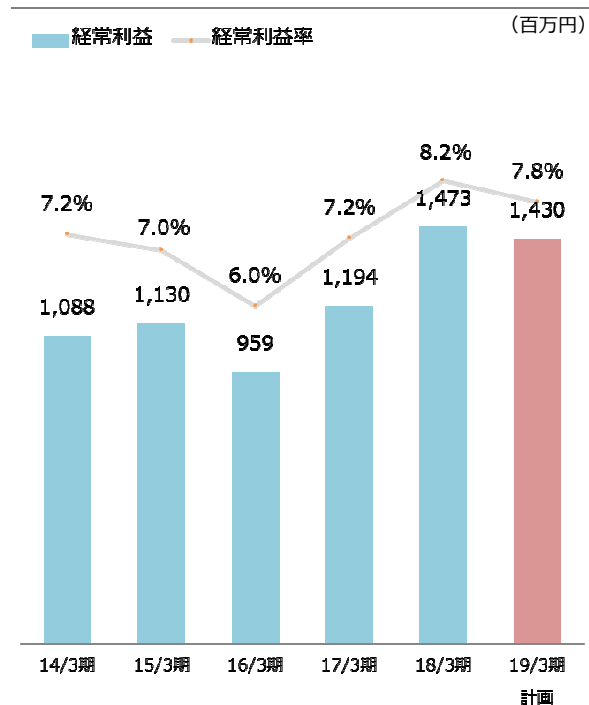
目次

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	7
III : 2019年3月期第2四半期 業績概要	15
IV : 2019年3月期 業績見通し	23
V : 成長戦略	27
VI : 参考資料	39

売上高

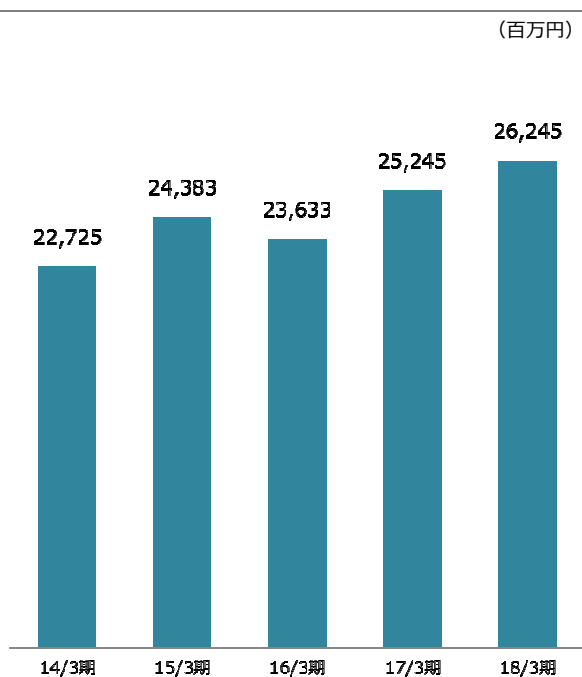


経常利益

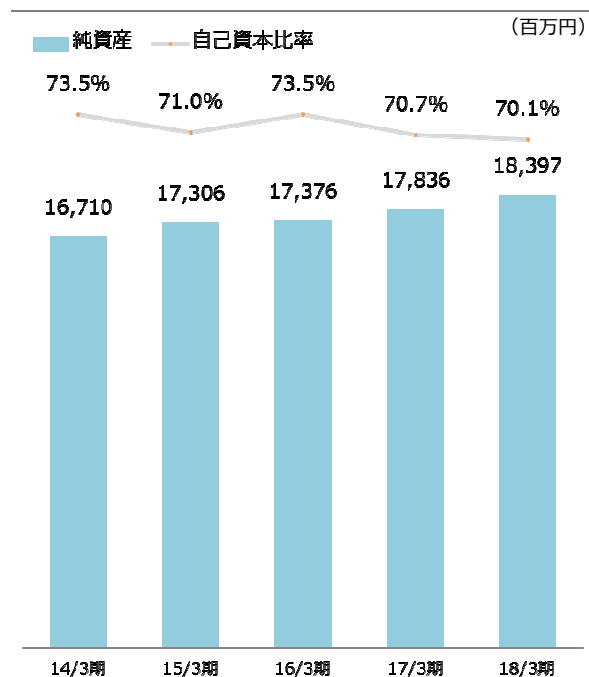


業績の推移 2/3

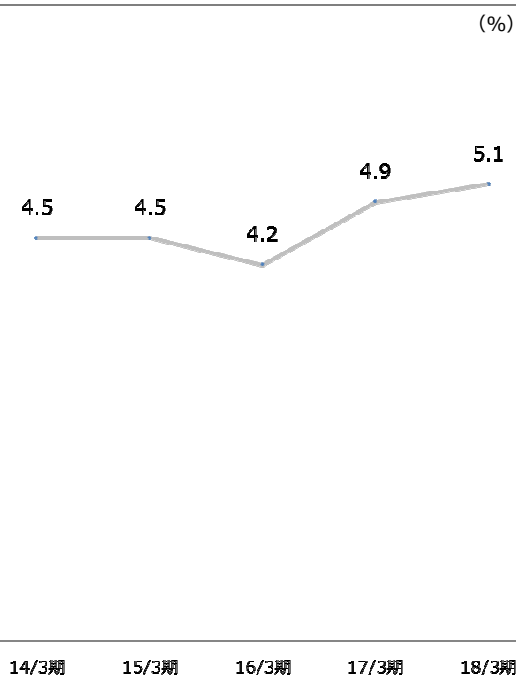
総資産



純資産



ROE



<参考資料> 直近のメディア掲載記事

新規追加

※これらの記事は、当社ホームページ内 ニュース欄からお読みいただけます。

●機械新聞
2018年9月27日号

この人に聞く
西嶋 守男氏

売上高183億円達成へ 中期経営計画スタート

成長力・収益力を強化 海外生産と輸出も加速化

●金型新聞
2018年10月10日号

世界で認知されるブランドに

富士ダイス 西嶋守男社長に聞く

生産効率向上し、需要増に対応

●日本証券新聞
2018年11月9日号

富士ダイス 金属3Dプリンターなど紹介

国際工作機械見本市に出展

金属3Dプリンター造形品

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記載されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性(市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等)が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。